

フクビ

フリーフロアーK

施 工 要 領 書

フクビ化学工業株式会社

(目 次)

| | | |
|-------------|-------|---|
| 1.適用範囲 | | 2 |
| 2.製品概要 | | |
| 2-1 工法概要 | | 2 |
| 2-2 特 長 | | 2 |
| 2-3 参考納まり図 | | 2 |
| 3.材 料 | | |
| 3-1 材質 | | 3 |
| 3-2 専用工具 | | 4 |
| 3-3 捨張合板仕様 | | 4 |
| 3-4 床高さ調整範囲 | | 4 |
| 4.現場フローチャート | | 6 |
| 5.施工手順 | | 7 |
| 6.施工検査表 | | 9 |

1. 適用範囲

本仕様書は「フリーフローア-Kシステム」の工事に適用する。

2. 製品概要

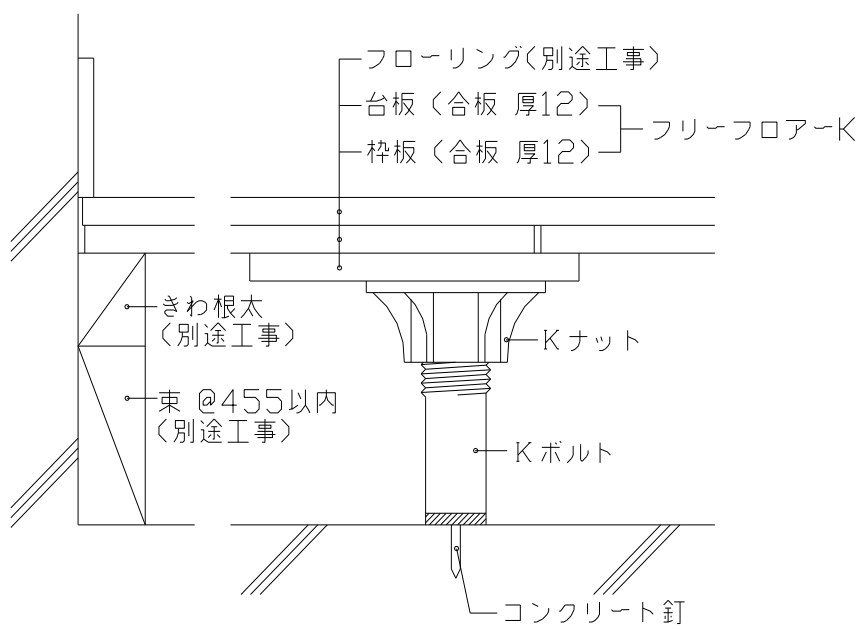
2-1 工法概要

「フリーフローア-K」は樹脂製の支持ナットのついた床パネルからなり、その支持ナットに床高に応じた樹脂製支持ボルト（Kボルト）をつけて敷き込んで行き、床パネルの上からレベル調整し、専用のコンクリート釘で床スラブに固定して仕上げる工法です。

2-2 特長

「フリーフローア-K」の床パネルは JAS 合板 I 類を使用しており、湿気等にも高い耐久性をもっている。

2-3 参考納まり図



3. 材 料

3-1 材質

| 部 材 名 | | 材 質 | 備 考 | |
|-----------------------------------|------|--------------------------|----------------------------------|-----------------------|
| Kパネル (床パネル) | 台板 | JAS 合板 I 類 12mm F☆☆☆☆ | ・パネルサイズ 10 種類 | |
| | 枠板 | | | |
| | ナット | 特殊樹脂 | ・ナットサイズ 3 種類 (15mm・35mm・80mm) | |
| ボルト | Kボルト | ボルト | 特殊樹脂 | ・ゴム座厚み 5mm ・Kナット対応 |
| | | ゴム座 | | |
| | Tボルト | ボルト | 特殊樹脂 | ・ゴム座厚み 5mm ・Tナット対応 |
| | | ゴム座 | SBR 製 硬度 90 | |
| ストッパー | | 特殊樹脂 | ・Tナット使用時は 必ずストッパーを 締める。 | |
| 専用コンクリート釘 φ4×50mm φ4.5×60mm | | 特殊樹脂製ハッキン付 特殊鋼 | ・Kボルトにはφ4 ・Tボルトにはφ4.5 | |

3-2 専用工具

| 工 具 名 | 用 途 | |
|--------------------|--|----------------------|
| K用ドライバー T用ドライバー | 床パネルのレベル調整に使用。 | |
| ストッパー締め | Tナット使用時のストッパー締め付けに使用。 | |
| 専用ポンチ(大) | 専用コンクリート釘、打ち込みに使用。 | T 403 mmボルト以上 |
| 専用ポンチ(中) | | T 202～336 mm ボルト用 |
| 専用ポンチ(小) | | Kボルト用 |
| 専用エアガン | 100V5～7kg/cm ² 空気吐出量 80l/min コンプレッサーに接続し 専用コンクリート釘を打ち込む。 | |

3-3 捨張合板仕様

| 仕 上 材 | | | 捨張合板厚み |
|---|----|---|--------|
| 種 類 | 厚み | 巾 | |
| 複合フローリング | — | — | 不要 |
| 無垢フローリング | — | — | 不要 |
| 直張りフローリング | — | — | 1 2 mm |
| ビニル床シート クッションフロア ビニル床タイル タイルカーペット カーペット | — | — | 1 2 mm |
| 畳 | — | — | 不要 |
| 床暖房パネル | — | — | 不要 |

※上記以外の仕上材を使用する場合は、捨張の厚みについて別途ご相談ください。

※ビニル床シート、クッションフロア、ビニル床タイル仕上げの場合、1 2 mm 捨張合板の目地が表面に浮き出る恐れがあります。1 2 mm 捨張合板の上に 5. 5 mm 合板を重ね張りすることで目地の浮き出しを軽減することができます。

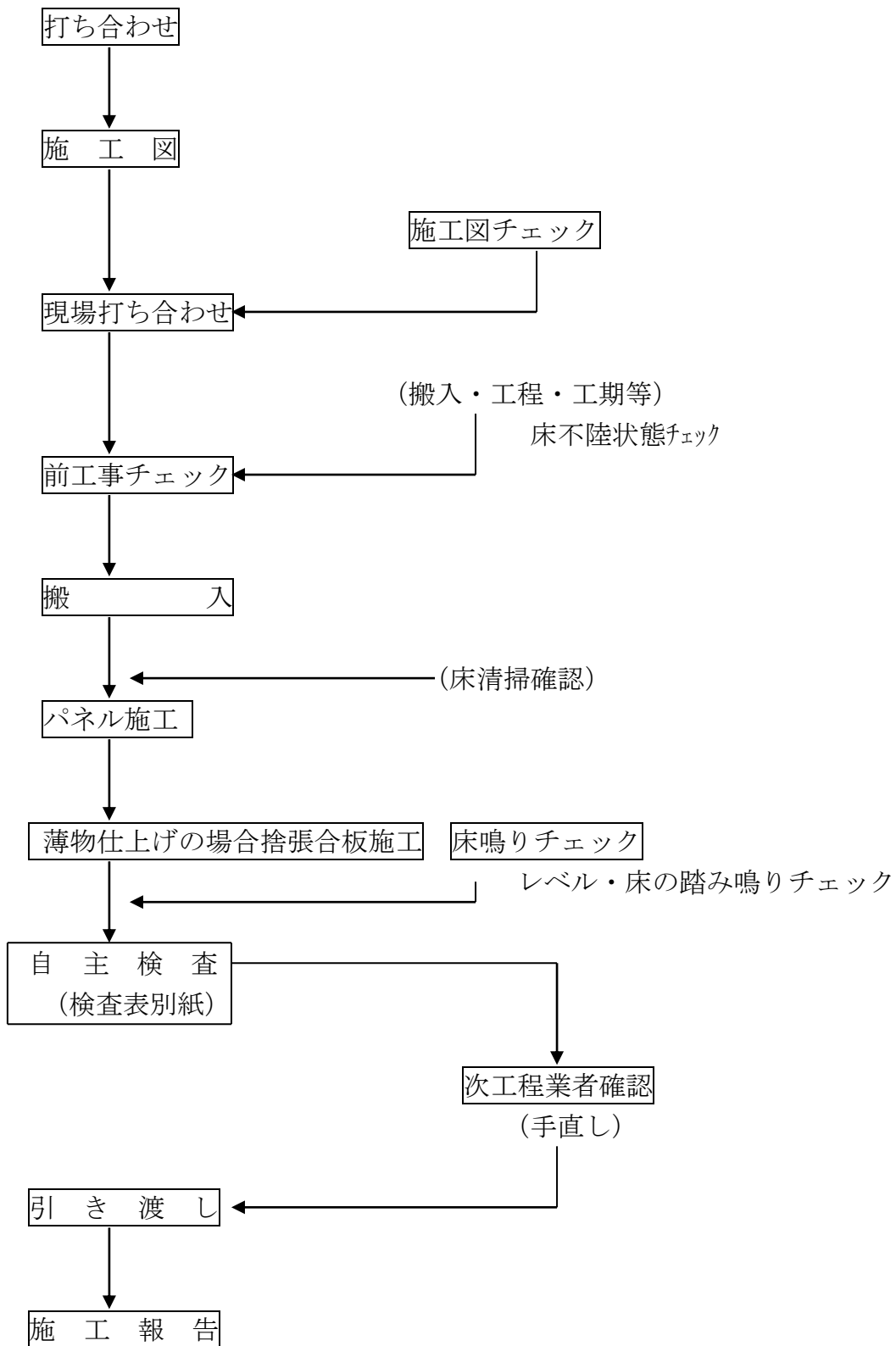
※施設用途以外に使用する場合は、捨張の厚みについて別途ご相談ください。

3-4 床高さ調整範囲

(スラブよりKパネル天端まで)

| Kパネル | Kナット | ボルト | 高さ調整範囲 (mm) |
|--------------------|--------|------------|---------------|
| 台板 12mm 枠板 12mm | K 15mm | Kボルト 40mm | 44mm ~ 70mm |
| | | Kボルト 65mm | 65mm ~ 95mm |
| | K 35mm | Kボルト 65mm | 65mm ~ 115mm |
| | | Kボルト 85mm | 85mm ~ 135mm |
| | | Kボルト 105mm | 105mm ~ 155mm |
| | | Kボルト 125mm | 125mm ~ 175mm |
| | | Kボルト 145mm | 145mm ~ 195mm |
| | | Kボルト 165mm | 165mm ~ 215mm |
| | T 80mm | Tボルト 202mm | 202mm ~ 286mm |
| | | Tボルト 269mm | 269mm ~ 353mm |
| | | Tボルト 336mm | 336mm ~ 420mm |
| | | Tボルト 403mm | 403mm ~ 487mm |
| | | Tボルト 470mm | 470mm ~ 554mm |
| | | Tボルト 537mm | 537mm ~ 621mm |

4. 現場施工フローチャート



5. 施工手順

① コンクリート床面の清掃確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凹凸のある場合は修正を依頼する。

② きわ根太の確認

- ・必要箇所にきわ根太が取り付けしており、高さも適当かチェックする。
この時、きわ根太と配管の高さについてもチェックする。
- ・ガタつきがないかチェックする。特に束が浮いていないかを確認する。

③ 第一列目の K パネルの施工

- ・支持脚ボルトの取り付け

K パネルの施工は割付け図に従い横一列ずつ行います。

専用ドライバーにて、先ず一列目に設置する K パネルに支持ボルトを目測で床高に合わせて取り付けて下さい。T ボルト使用の場合はストッパーも取り付けます。

- ・K パネルの切断が必要な場合は、壁との隙間・パネル同士の隙間は 2mm 程度を考慮しながら現場寸法に合わせて切断します。尚、立ち上がり配管がありパネルを切り欠く場合は配管との隙間は 5～10mm とします。

- ・K パネルの設置

割付け図に従い左側から横一列に配置し、きわ根太部とパネル、パネル同士を固定します。(パネル同士の固定は全ねじビス 38mm 又は木工ボンド併用で 38mm スクリューネイルにて 225mm ピッチ以内で固定します。パネルときわ根太の固定は全ねじビス 38mm にてピッチ 300mm 以内、又は、木工ボンド併用にてスクリューネイル 225mm ピッチ以内にて固定。)

- ・レベル調整

一列毎に水糸を張り、専用ドライバーにてレベルを調整して下さい。

T ボルト使用の時は、必ずレベル調整後ストッパー締めにてストッパーを締め付けます。

- ・専用コンクリート釘打ち込み

専用コンクリート釘を支持脚ボルトの中へ落とし込み、エアガン、又は専用ポンチを用いて確実に打ち込みます。

コンクリート釘打ち込みは必ず一列毎に行い打ち込んだ後、固定状況を必ず確認します。

④ 二列目からの K パネルの施工

- ・ 一列目と同様に一列毎同様な手順で施工します。

⑤ 最終列の K パネルの施工

- ・ 最終列は K-3、K-4 を用いて納めます。
この時パネルの幅は 200mm 以上となるようにします。

⑥ 床下地完了

- ・ 最後に全体のレベルを確認します。
部屋全体を歩いてみて、固定忘れ、床鳴り、床の沈み込み・浮き上がり
段差などがいないかチェックします。

⑦ 仕上げ材施工

- ・ フローリング施工の際は、K パネルと目地が合わないよう、パネルの長
手方向と直交するよう施工します。
- ・ 薄物仕上げ等捨張合板が必要な場合
K パネルと捨張合板の目地が合わないよう割付けます。この時 K
パネルと捨張合板のかかり寸法は 150mm 以上とします。
5. 5mm 捨張合板の固定はマックス社製のステープル 725MA 相当品
で固定します。(6列×9列=54本以上/3×6尺合板1枚)。

6. 施工検査表

| 検 査 内 容 | 検 査 結 果 |
|---------------------------------------|--------------|
| レベルが出ているかを確認する。 (3/1000 mm以内) | |
| 壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。 | |
| 立ち上がり配管が、接触していないかを確認する。 | |
| ボルトの調整忘れがないかを確認する。 | |
| きわ根太やフリーフロアの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。 | |
| フリーフロアの上を歩き床鳴りがないかを確認する。 | |